

2025年10月のてがたんは雨のため、室内での実施となりました。参加者の皆さん、ありがとうございました。
下見の観察記録でレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回のてがたんは11月8日（土）で、テーマは「世界とつながっている、我孫子の鳥」です。ぜひご参加ください。市民スタッフの皆さん、次回の下見は10月26日（日）です。

10月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→香取神社→我孫子市役所駐車場→鳥の博物館
- 下見日時／天気：2025年10月5日（日）10:00～11:00／晴れ
- 市民スタッフ：5名（伊東茂子、石原直子、北村章子、小泉伸夫、弘實さと子）
- 観察会参加者：2名（10月11日に室内での解説を実施）
- 鳥博職員：1名（村松和行）

— 観察した生き物の記録 —

【鳥類】ハト科：キジバト／モズ科：モズ／カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／スズメ科：スズメ／家禽や外来種：ドバト（ハト科）

【両生類】ヌマガエル 【甲殻類】サワガニ 【軟體動物】ミスジマイマイ

【昆虫】バッタ目：オンブバッタ、カワラバッタ、イボバッタ、エンマコオロギ、オカメコオロギ、ツヅレサセコオロギ、アオマツムシ、クビキリギス、クサヒバリ、カネタタキ／カマキリ目：チョウセンカマキリ、コカマキリ／チョウ目：ヤマトシジミ、ウラギンシジミ、ルリシジミ、ムラサキシジミ、モンシロチョウ、ナミアゲハ、オスジアゲハ、コミスジ、ナガサキアゲハ、アカボシゴマダラ、イチモンジチョウ、ホタルガ、タケノホソクロバ（幼虫）／ハチ目：オオスズメバチ、ツチバチの仲間／コウチュウ目：ナミテントウ、ナナホシテントウ、ゴミムシの仲間／カメムシ目：アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、チュウゴクアミガサハゴロモ

【クモ】オナガグモ、ジョロウグモ、アシナガグモの仲間

【タケ・ササ】イネ科：モウソウチク、マダケ、ハチク、アズマネザサ、チマキザサ、アズマザサ

【草の花】ヒュ科：ヒナタイノコヅチ、イノコヅチ、イヌビユ／ハエドクソウ科：ハエドクソウ／イネ科：オヒシバ／クワ科：クワクサ／アカネ科：ヘクソカズラ／キク科：ノゲシ、セイタカアワダチソウ、コセンダングサ／スミレ科：スミレ／カタバミ科：カタバミ／トウダイグサ科：コニシキソウ、エノキグサ／タデ科：イヌタデ、ハナタデ、ボントクタデ、ミズヒキ／ツユクサ科：ヤブミョウガ、ツユクサ、マルバツユクサ／カヤツリグサ科：アゼガヤツリ／ブドウ科：ヤブガラシ／アブラナ科：タネツケバナ／ナス科：イヌホオズキ／コミカンソウ科：ナガエコミカンソウ

【実】ナス科：クコ

2025年10月の観察アルバム



今回のテーマは「タケってどんな植物？」でした。下見ではタケの地下茎に注目しながら、香取神社ではモウソウチクとマダケ、市役所駐車場周辺ではハチクを観察しました。

観察会当日は雨のため、室内のみの実施となりました。主にモウソウチクの1年の生育サイクルを紹介しながら、タケの生態について解説しました。



今月の案内人 村松 和行



①秋になると黒い実をつけるイヌホオズキ



②近年増えている外来種のチュウゴクアミガサハゴロモ



③香取神社の斜面林下の水路で見つけたサワガニ



④まだ皮が残る1年目のモウソウチク



歩いたルートと観察した生き物



⑤露出して枯れていたモウソウチクの地下茎



⑥地下茎の芽子から分岐して新しく地下茎を伸ばすモウソウチク



⑦節にある2本の輪の隆起がよく目立つハチク



⑧連なって笹の葉を食べるタケノホクロバの幼虫

今月の鳥 竹カゴと家禽

タケは昔から私たちの生活に利用されている植物です。タケの分布は主に温帯の湿潤な気候の地域で、その軽さと加工のしやすさから世界中で様々な家禽用のカゴが作られています。日本では鶏飼用のウミウ、獵の罠（おとり）用に飼われる鳥、二ワトリのような家禽を運ぶ際などに竹カゴが使われています。国や地域の文化の違いによって様々なカゴの編み方や形があるので、比較してみると面白いでしょう。



アヒル用の竹かご
(中国)



闘鶏用の竹かご
(インドネシア)